

『遠野物語』の成立過程知る 貴重な資料を文化財に指定

2010年に発刊100周年を迎える『遠野物語』の初版第1号と、初稿本や鉛筆書き資料などの関連資料7点が市指定文化財に指定されました。5月20日に行われた市文化財保護審議会（時田克夫会長）からの答申を受け、5月26日の教育委員会議で決定されたものです。

1910年に発刊された『遠野物語』の初版第1号

は、著者の柳田國男が、話者である佐々木喜善に贈呈したもの。中表紙には「御初穂ハ 佐々木君ニ 國男」と柳田の直筆で墨書きされ、喜善に対する最大限の評価を示す貴重な資料となっています。

また関連資料は、柳田の弟子が長年所有し、91年に市に寄贈されていたもの。桐箱の中に初稿本、再稿本、校正見本刷り、鉛筆書き資料、遠野

郷略図、校正刷りが納められています。それぞれの資料を比較研究することで、「遠野物語」成立の過程を知ることができ、学術的に貴重な資料です。



市の文化財に指定された『遠野物語』初版本などの資料

遠隔医療の新たな取り組みで 情報通信発展の栄誉に輝く



写真上/東北総合通信局長賞の表彰状
右/血圧などの測定結果をデータ送信する遠隔医療プロジェクトの利用者

東北総合通信局主催の「電波の日・情報通信月間」記念式典は6月1日、仙台市の江陽グランドホテルで行われ、地域における情報通信の活用 に貢献したとして、本市が東北総合通信局長表彰を受賞しました。

市は昨年度から、総務省の委託を受け「地域ICT活用モデル構築事業（遠隔医療モデルプロジェクト）」を実施し、高齢者の病氣予防と健

康づくりに取り組んでいます。現在、市民180人を対象に定期的に血圧や脈拍、体重、歩数などを測定。その結果を基に、都市部にいる専門医とテレビ電話を利用して会話をしながら、健康指導を受けています。こうした取り組みは、医師が少ない医療過疎地域での健康不安の解消や、健康の維持・増進に向けた新たな手法の一つとして期待されています。



一条乱れぬ隊列でドリル演奏を披露する消防ラッパ隊

火消し魂を威風堂々と披露し 防災の意識をさらに高める

市消防演習は6月14日、早瀬川緑地公園などで行われ、有事の際の訓練を行いました。朝7時のサイレンとともに、消防団員や婦人消防協力隊など765人、車両62台が、遠野小学校のグラウンドに集合。統監の本田敏秋市長が「多くの被害を出した岩手・宮城内陸地震から今日でちょうど1年。これまでの教訓を生かし、自主防災意識を高め、有事の際には犠牲を少なく、有効な救済活動につなげる『減災』



統監の本田市長らが見守る中、きりっとした表情で市街地を行進する消防団員ら

市長と語るう会を全町で開催 地域の声を市政運営に反映

平成21年度市長と語るう会は、6月19日の青笹町を皮切りに、7月10日の宮守町まで市内9地区で開催されています。

本年度の市長と語るう会は、23年度から5カ年におよぶ市総合計画後期基本計画策定に向けた市政課題の洗い出しが目的。本田敏秋市長のほか副市長や教育長、各部長が地域に出向き、住民と膝を交えて意見を交わしています。

これまで開催された地域の懇談では「遊休農地の活用をどのように考えているのか」

「シカやクマ対策を積極的に進めてほしい」「ごみの有料化よりも、まずは減量化に取り組むべき」「遠野の技術者養成に、独自の支援策があってもいいのではないか」「放課後子ども教室の内容を充実させてほしい」など、農業、環境、雇用、教育などさまざまな分野にわたる活発な意見や提言が交わされました。

頂いたご意見・ご提言は、今後、調査・検討した上で、後日提言集としてまとめ、皆さまに報告する予定です。

当日、都合により会場にお



各地域で活発な意見や提言が交わされた市長と語る会

縄文時代の新たな遺跡を発掘 祖先の残した暮らしを学ぶ

発掘調査が進められている綾織町の「新田II遺跡」の現地説明会（財団法人文化振興事業団埋蔵文化財センター主催）は6月20日、現地で行われ、市民ら100人が縄文時代の暮らしに思いをはせました。

調査は、東北横断自動車道釜石秋田線の建設に伴い行われたもので、調査面積は2800平方メートル。国指定史跡綾織新田遺跡の近隣に位置し、今年4月から調査を始められ、これまでに竪穴式住居20棟のほか、縄文土器や石器など多数の遺物が発見されています。



遺跡の説明を行う埋蔵文化財センター職員
右 出土した縄文土器

遺跡は縄文時代中期（約4500年前）のものと見られ、中央の広場のような場所を基点に、ドーナツのような環状に住居が並んでいます。

調査を行った同センターの佐々木勝所長は「今回の遺跡は情報量が多くとても貴重なもの」と話していました。

シイタケ極め全国表彰

キノコや山菜、木炭など、森林から生産される産物の振興に長年尽力した人を表彰する「第22回特用林産功労者」に、鈴木廣志さん(79)＝附馬牛町＝が選ばれました。伝達式は6月16日、遠野農林センターで行われ、山田互県遠野農林センター所長から鈴木さんに表彰状などが手渡されました。

鈴木さんは昭和40年代から、シイタケ栽培を開始。積極的に設備投資をしながら、地域の山林で生産される原木を活用した乾シイタケの安定生産を行っています。また、地域の生産者へ栽培技術を指導するほか、県主催の参入者講習で講師を務めるなど、担い手の育成にも尽力しています。鈴木さんは「新規参入者の育成を図り、今後も林業の発展に努めます」と話していました。



賞状と記念品を受け取る鈴木廣志さん

山の幸競い29人が受賞

第31回市権茸共進会は5月25日、とびあいで開かれました。共進会では、大きさや形状、色合いなどを細かく審査。5部門で延べ29人の入賞者をたたえました。主な入賞者は次の通りです。

- 【天白どんこの部】
優秀賞＝菊池英雄(宮守町宮守)
優良賞＝多田和郎(宮守町鱒沢)、鈴木廣志(附馬牛町)、鈴木スエ(附馬牛町)
- 【茶花どんこの部】
優秀賞＝佐々木忠彦(附馬牛町)
優良賞＝菊池静子(宮守町宮守)、水越正宏(宮守町宮守)
- 【どんこの部】
優秀賞＝鈴木廣志(附馬牛町)
優良賞＝佐々木キワ(附馬牛町)
- 【こうこの部】
優秀賞＝多田美枝子(宮守町鱒沢)
優良賞＝菊池菊雄(宮守町鱒沢)、江川幸男(附馬牛町)、菊池英雄(宮守町宮守)
- 【こうしの部】
優秀賞＝菊池ケイ子(宮守町宮守)
優良賞＝琴畑熊吉(土淵町)